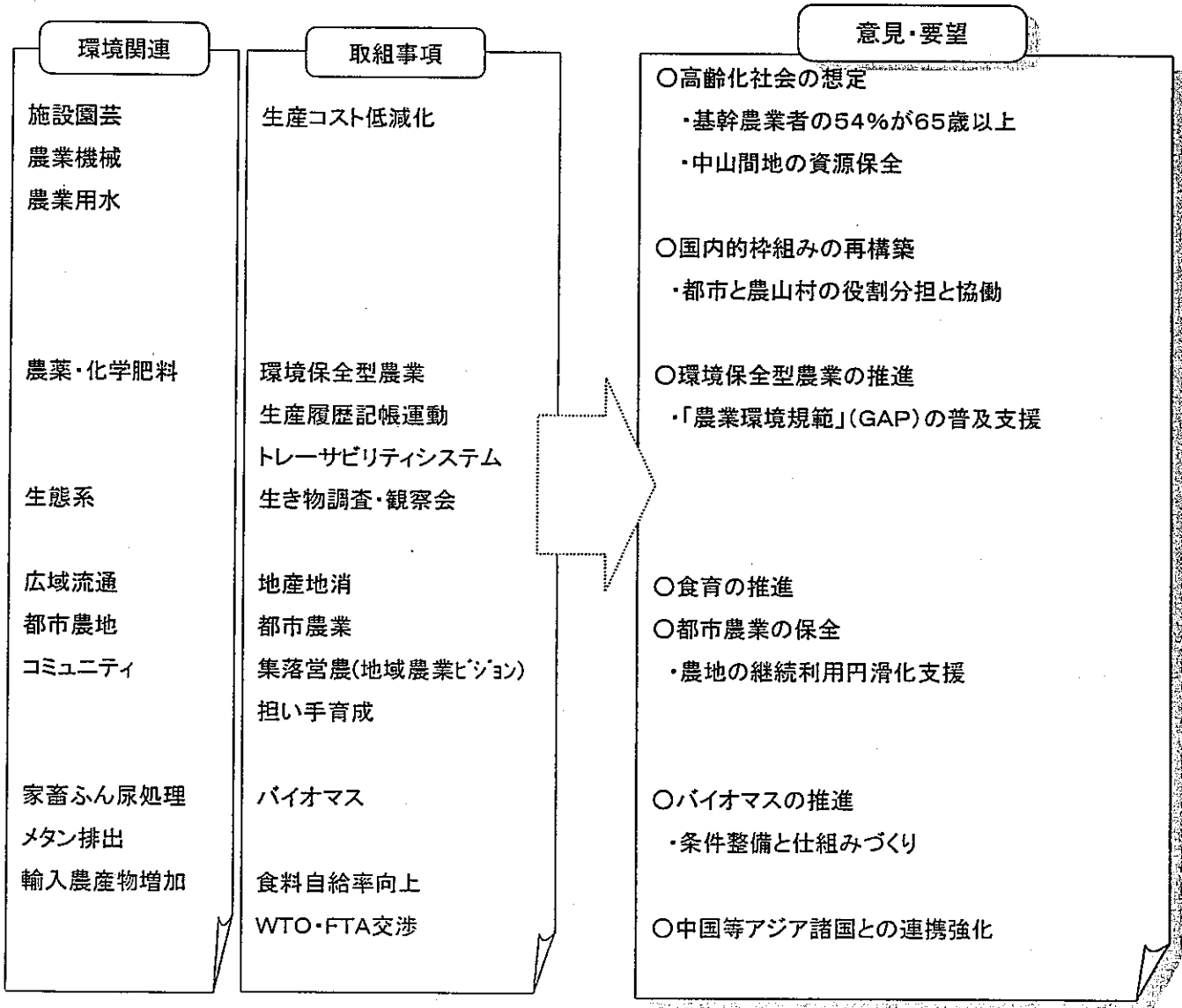
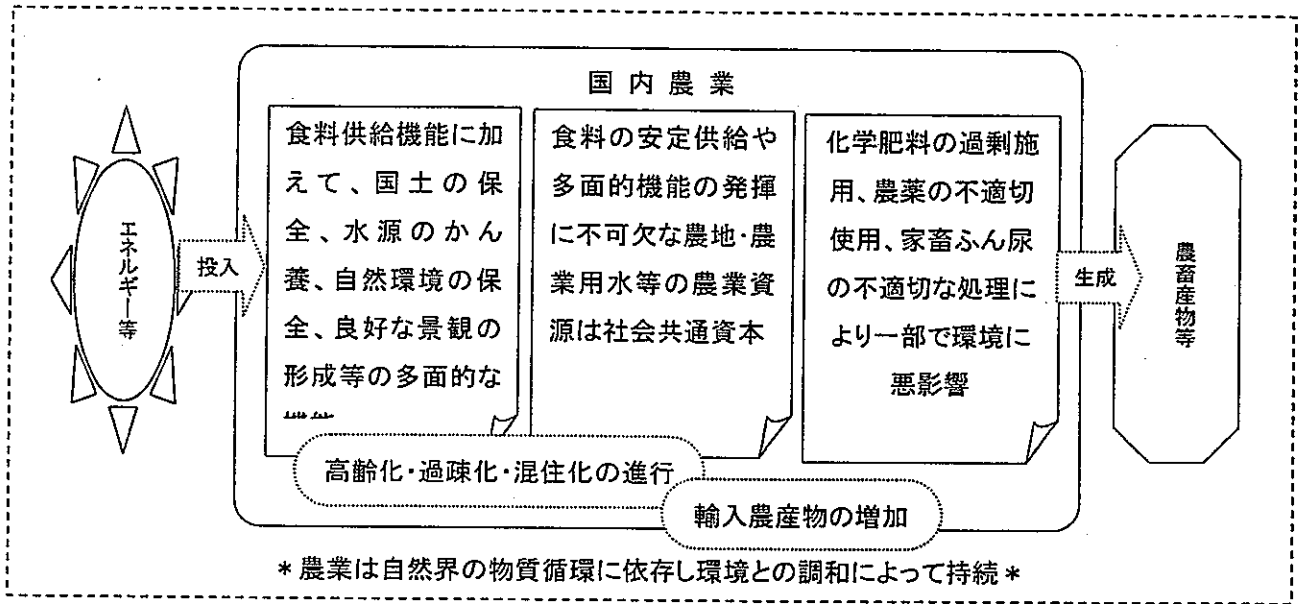


環境基本計画見直しについて

全国農業協同組合中央会(JA全中)



中央環境審議会総合政策部会「第三次環境基本計画策定に向けた考え方」に関する意見

平成17年9月13日

全国森林組合連合会

組織部長 肱黒直次

以下のとおり意見を申し述べます。

→ 「環境」という言葉の定義をはっきりすべき。「自然環境」などはっきり記述することによって、議論の内容が明確になり、誰にでもわかりやすくなる。

二. 第三次環境基本計画策定に向けての現状と課題

3 解決すべき課題 (P. 5)

→ 人工林の記述について、「人工林や天然林など長い年月にわたって利用し続けてきた国内の自然資源を有効に利用する」と明記したほうがわかりやすい。

4 持続可能な社会に向けての環境面からの理念 (P. 5~6)

→ 適切な管理の下に持続的な利用が可能な自然資源の有効利用を進める。
21世紀型の新たな管理・利用技術開発、環境面でも進めるべき。

三. 今後の環境政策の展開の方向 (P. 7)

→ 賛成。あえて書けば、

1. 環境的側面、経済的側面、社会的側面の統合的な向上

○より良い環境のための経済とより良い経済のための環境の実現 (P. 8, 9)

→ 8P下段、例示に「そのためのモデル事業の実施」を追加。

→ 9P上段、残された自然・・・「壊された自然の回復」追加。

○より良い環境のための社会とより良い社会のための環境の実現 (P. 9)

→ 21世紀の新たな技術を活用し、自然環境と自然素材を生かした新たな地場産業・仕事づくりを山村地域で行う。森林・水環境保全を社会コストをおさえることが可能。

2. 環境保全上の観点からの持続可能な国土・自然の形成 (P. 11)

○既存ストックの活用や農林業の機能にも着目した・・・ (P. 11)

→ 長年継続している農林業＝自然産業をもっと積極的に評価する。

4. 国、地方公共団体、国民の新たな役割と参加・協働の推進 (P. 13)

→ モニタリングや自然環境の観測・巡視など行政の仕事を、自然産業に携わる地元の民間団体・人や学校へ委託。

四. 持続可能な社会に向けた重点的な取組 (P. 17)

→ 急にトーンダウンしている。残念。

⑦「市場において環境の価値が積極的に評価される仕組みづくり」 (P. 18) → 重要。

・外部経済効果を内部経済化するための評価基準や会計制度の開発が効果的。100年内に実現を夢見たい。リサイクル費用の商品価格への上乗せなど、実現可能なところから進めていけばできる。積極的な記述を希望。

・持続的な生産と利用が可能な自然資源（森林資源）の選択、製造・輸送エネルギーの使用量、木材の長期間利用、リユース、リサイクル、などを経済的に可能とする、会計基準（減価償却）や税制での誘導は効果的。

以上

(参考)

基本的な考え方

木の文化は森林の文化

日本人は古くから森林と深く結びつき、
暮らし・社会に必要なものはほとんど木でつくってきた。

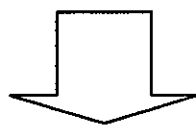
→ 収穫 → 更新(植林) → 保育 → 成林 → 収穫 → 更新(植林) → 保育 → 成林 →
(森林と人間の関わりのサイクルの中で現在の森林を維持し続けてきた)

木材は貴重な再生自然資源	森林のさまざまなはたらき
森林は何度も繰り返して木材が 収穫できる自然の恵み。	大地の安定、大気・水の安定、 生活圏の安定(防風、防潮) …

- このサイクルは、森林の生産力を最大限に引き出す技術(森林の永続性を保障しつつ必要な生産物を最大限に収穫する技術)によって支えられてきた。
- 市場経済最優先の時代にこのサイクルが分断されている。更新・保育費用 > 木材価格
- 一方で、砂漠化、熱帯林破壊、酸性雨、温暖化など地球規模の自然環境破壊が問題化。

自然と人間との関係

一度人間が手を加えた自然に対しては、(人手を加えなくても自然環境が維持できる状態に安定するまでは)人間は責任を持って手を加え続けなければならない。



森林組合

『山村に住んで林業生産に関わって生活をしてきた人が、これからも林業生産にかかわって山村に住み続けることができる社会の実現』を目指す。

- このことは、組合員の利益を将来にわたって補償することにほかならない。
- あわせて、このことは国民経済的にもっとも合理的である。すなわち、公共事業として森林を復旧・保全・管理するとすれば莫大な税金の投入が必要となる。

(1990 肱黒)

「動物に起因する感染症」

財団法人 日本動物愛護協会

理事・事務局長 会 田 保 彦

台風一過、猛暑をついて茨城県まで出張に出向きました。

利根川を渡るや車窓は一変し、山野はまさに滴るような目にやさしい緑一色に染め上げられ、真っ青な夏空には数片の白雲が列車と並行するかのよう北へ流れていました。

ご存じのように、当該地は農業、漁業がともに盛んで全国有数の食料自給自足県として名高く、併せて東京の巨大市場を賄う台所(?)の役も担っている豊かな土地柄です。

しかし、一昨年は「鯉ヘルペス」により養鯉業者が壊滅的な打撃を被ったほか、本年はまた、採卵鶏の数では日本一を誇りながらも「高病原性鳥インフルエンザ」の県内発生が相次ぎ、飼養農場関係者を震え上がらせています。この間、政府は国内防疫の強化、全国一斉サーベランス(科学的な分析調査)の実施等の事務連絡を繰り返していますが、いずれも対処療法の域を免れずに正確な原因の究明すら不明なことが悩ましい問題です。それにしましても近年は、世界各地においてサズ、鳥インフルエンザ、ウエストナイル熱等の感染症やBSE(狂牛病)のような新たな病気の発生により、国際的にも社会不安が一段と増幅されてきた感があります。かって、人類が遭遇したこともなかったような人と動物の共通感染症が何故これほどに拡大して発生するのでしょうか。

スペースシャトル「ディスカバリー」の打ち上げ成功及び宇宙ステーションとのドッキングに湧きかえるこの時代に、いささか後戻りをするかのような非科学的な感慨で恐縮ですが、まずマクロでは急激な人口増加、環境破壊、物質文明の発展等により徹底的に地球の生態系を狂わせたことであり、次にミクロでは身近な生活周辺における「もったいない」精神の欠如があげられると考えています。即ち、大量消費や経済効率のみが重視される価値観が横行してモノを粗末に扱いつぎることの弊害です。モノを大切にすることは自ずと動物の命を慈しむ精神につながり、それはとりも直さず自然環境の保全や人間の生命尊重にも大いに理解を深めるはずで

ところで、アイツ(8才・38Kg)の近況ですが、何気なく遊ぶうちに右わき腹にピンポン玉大の脂肪腫を見つけ、月例検診の折りにホームドクターに摘出のオペをお願いしました。幸い術後は順調でことなきを得ましたが、無残にも自慢の金髪を30cm四方ばかり刈り取られ、見事な(?)サマーカットに変身したところです。それでも、感染予防の一環として多量に処分を余儀なくされるファームアニマルに比べたら幸せなものです。

「炎暑」

財団法人 日本動物愛護協会

理事・事務局長 会 田 保 彦

夏の訪れとともに、花々の装いも紫系からクチナシ等に代表される白系へと移ってきました。

しかし、各地では早くも平常の体温を簡単に超えてしまうような記録的な猛暑に見舞われ、あまりの異変に人も動物もグッタリです。

もとより、アイツ（8才・37Kg）も例にもれず、そのあえぐ様は只事ではありません。人の顔さえ見れば、一段と激しい息遣いとなり今にも倒れそうに、まさに身の置き所がない、といった表情で訴えてきます。わずかでも涼を求めた結果、玄関ポーチ下のタイルでペタッと寝そべるのが常となり、たまにスポーツドリンクの給水を受けながらろうじて凌いでいる状態です。そして、あれほど好きだった散歩もいつしか控え目になり、時には脚側行進（リーダーウォーク）どころか脚後行進（？）となって、トボトボ後から着いて来る始末です。

異変と言えどもう一つ。例年であれば、初夏から梅雨明けまでの間、早朝の散歩の道すがらに鳴き声を楽しませてくれているカッコーが突然に姿を消してしまったことです。これまでは、他の鳥の巣にチャッカリと「託卵」を終えても、梅雨の間は里に居ついていたものですが、連日の晴天と暑さに辟易したのか、気象庁の発表を待たずに勝手に梅雨明けと勘違いして秩父・奥多摩の山中に避難してしまったようなのです。異常気象は自然の生態系にも多大な影響を及ぼしているのです。

一方、人間社会の暑さ対策となると、今夏に関しては政府を中心に行政関係者のクールビズが浸透して話題となっていますが、民間では未だしの感が否めません。事実、当協会の来会者を見てもほとんどが背広着用です。多分、消エネの一環として精神的な効果が一義となっているのではないかと推察しているところですが、何はともあれまず第一歩を踏み出したことに意義があるのでしょう。エアコン等の文明の利器に頼れば頼るほど、結局は「機械あれば機事あり」で、どこかで負荷も増しているからです。

今、出張先のホテル（6月30日・福岡市）で本稿を認めているところですが、皮肉なことに昨日より東京地方は梅雨に後戻りした由。アイツのことが気になっていましたが、ホッと一息ついでのんびりしているのではと安堵しています。ところで、もう一度あの爽やかな鳴き声を聞きたいのですが、カッコーは山から戻ってきてくれるでしょうか。

PETPET

「バロメーター」

財団法人 日本動物愛護協会
理事・事務局長 会田保彦

八十八夜を間近に迎え、拙宅に隣接する広い茶畑は、いつしか深緑から黄緑へと色鮮やかに変身してきました。ここは、「かおり静岡、あじ狭山」と並び称されるおいしい茶産地の一隅で、まもなく新芽の茶摘みが始まります。

この、まるで劇場の分厚いデラックスシートのように整然と区画された農道と茶畑は、通勤の近道であり、また毎朝のアイツ（8才・37Kg）の散歩コースとしてもすっかりお世話になっています。ならば、そこは必然的にアイツの排便、排尿の場にもなることも多く、いくらキチンと後始末はするにしても、農家の方にはいささか気が引けているところです。それにしても、いつもながら何と山盛りで立派なコト。時には、愛用のポイ太くん（ウンチ処理袋）が一杯になるほど健康そのもので、快食・快便が自慢の似たもの親子（？）の面目躍如たるものがあります。しつこくて恐縮ですが、更に細かく観察をしますと、その場所は必ずしも一定ではなく、丁寧に一列づつ畑の畝間を嗅ぎながら、行きつ戻りつした末にようやく実行に至ります。アイツなりに何を根拠にその場を特定するのか興味は尽きないのですが、持って生まれた鋭敏な嗅覚は如何とも理解しがたく、アレコレ思い巡らすばかりです。

一方、夜更けの散歩コースと言えば、雑木林や公園が中心で、一日の締めくくりとして時間も朝より50%増しにしています。まずは、帰宅の足音を察知しての遠吠えによる挨拶に始まり、次いで太いシッポをゆらして散歩の催促となります。元気に歩き回るのが、このところ気温の上昇につれ、さすがにロングコートが邪魔らしく、息遣いが激しくなってきました。圧巻は終わった後の水飲みです。ポウル一杯の新鮮な水にむさぼりつくことおよそ2分間に及び、ピチャ・ペチャ・クーと規則正しい3拍子で豪快に飲み続けるのです。目分量ですが、冬期では一度に200cc位、今ではゆうに300ccを超えていると思われます。

予防は治療に勝ると信じ、月に一度は定期的にホームドクターの健康診断をお願いしていますが、何よりも常日頃のチェックが欠かせません。そのバロメーターとなるのがアイツの場合は排便と摂水なのです。他にも目の輝き、毛の艶等のチェックポイントがありますが、犬のケアとしてはどれも極めて当り前のことです。しかし、残念ながらそれすらも面倒がって実行できない飼い主も少なくありません。所詮、そのような人は始めから飼う資格はないし、ロボットでも買って遊んでいけばいいのです。

なぜならば、適正な飼養をしているか否かにより、飼い主自身もまた社会的な評価のバロメーターとして、その人柄と生命に対する責任感が問われているからなのです。

PETPET

「バランス感覚」

財団法人 日本動物愛護協会
理事・事務局長 会田保彦

例年のことですが、年度末を迎えると地方へ出張が頻繁となります。

家人からは、「いろいろな所に行けていいわね」と言われますが、どうやら旅行と勘違いしているようで、いささか心外です。確かに、かつては羽を伸ばしたこともありました。今ではアイツ（7才・38Kg）のことが気になり、一泊ですらやと妥協した末です。そして、翌日は決まって一刻も早く会いたくて帰心矢の如くに帰京するのが常です。

本来、出張と旅行とは本質的に全く異なるものです。出張ならば、文明の利器を最大限に利用しながら効率よく最短時間で移動いたしますが、一方、旅行ならば、できるだけ各駅停車を利用し、その土地の風に吹かれながら食・住等の文化に触れてのんびりと移動すること、と理解しています。見方を代えれば、物質文明と精神文化の違いと言えらるかもしれませんが、実は、現代社会を心身とも健全に生き抜くにはその二つともが必要で、双方のバランスを上手に取ることが大事なのだと思います。そのせいか、気ぜわしい出張が続くと、今度は非日常を求め、アイツを伴い車で気ままに全国縦断の旅行でもしたいなあーと夢見ているところです。

同様に、およそ似て非なのが動物愛護家と動物愛好家で、しばしば誤解されています。前者は、人と動物の共生を前提に、動物の目線から感情と科学（動物の習性・生理・生態を熟知する）のバランスを考えて飼育する方であり、後者は、ひたすら可愛い・大好き等という人間の目線から感情が優先し、科学が欠如したアンバランスな飼育をする方です。敢えて、動物の飼い主を俎上に上げて二分割するのは、おこがましくて本意ではありませんが、日本の動物愛護の現状を考察いたしますと、残念ながら愛好家が圧倒的多数であることは否定できません。彼等は、ひとたび感情にホコロビが生じると終生飼養の責任を放棄し、多くの不幸な動物たちを派生させる原因となっているからです。

こよなく犬を愛することで有名な英国人は、どこの国民であっても犬に対する扱い振りを見れば、その国の文化水準が推し量れると言っています。即ち、人と動物との係わりは文化という位置付けなのです。それは、豊かな精神文化を誇るかの国の懐の深さをうかがわせると同時に、前述した人と動物の共生の意にも重なります。真の共生とは、それぞれが相手の利となるために存在する、という双利共生に基づいた文化的な間柄を言います。ならばアイツは、まさしく共生のパートナーであり、これからも感情と科学のバランスをとりながらお互いの絆を強め、動物愛護家として英国人にも評価されるように努めます。

H17. 2/1

PETPET

「野生動物との共存」

財団法人 日本動物愛護協会

理事・事務局長 会田保彦

立春も間近、早くも庭の片隅では「フキノトウ」が二つほど顔をのぞかせてきました。季節のうつろいは正直ですが、寒さは今がピークのように。

休日の定番ですが、冷たい風も何のその、ダルマのように着膨れした飼い主と同じく肉の塊と化したアイツ（7才・38Kg）は元気よく近くの公園へ飛び出していきます。

落ち葉をかき分けて林道を歩くのも楽しいのですが、特にアイツのお気にいりは陽だまりの芝生です。いきなり、ドターンと巨体を横たえるや、四肢を振り回し、高く上げ、折り曲げて、奇声を発しながら全身でのたうち回ります。まさに傍若無人で快感に酔いしれているかのようです。やがて、体中にへばりついた細かい枯芝を払い落とすと、何事もなかったかのように、スタスタ歩き始めるのです。日々のブラッシングは欠かさないし、ダニやノミも少ない時期なのですが、すっかりクセになっているようです。同様のことは、自然界におけるイノシシ等の大型野生獣にもしばしば見られ、「ぬた場」と呼ばれる所で転がり回り、泥浴びをしながら体温の調整や寄生虫を落とし、そして他個体とのコミュニケーションをするための臭い付けをする習性があります。

野生動物と言えば、昨秋のクマ騒動がやや鎮静化したと思ったら、今度は青森県脇野沢における天然記念物に指定された北限サルの捕獲問題です。マスメディアに報道されるや、すかさずに心やさしい方々から抗議の電話が殺到してきました。もとより、個の命も大事であることは論を待たないし、それを支持する「やさしさ」を否定するつもりは毛頭ありません。ただし、一方ではサルによる被害者（生産農家等）の苦汁の歯ざしりが重くのしかかってきて、「やさしさ」だけでは代案にはならず、容易に解決いたしません。誤解を恐れずに言えば、もしもサルたちが、法律による裏づけで保護されて数が増え過ぎた結果、山がエサ不足となり里を荒らし回るのであれば、D・モリスが「自然の摂理」で主張するように、個々の種は他の生物種との共存が可能な限度内で、自らの個体数増加をとどめなければならないのかも知れないし、また、生物界における「間引き」とは、決して種の絶滅にはつながらず、一時の減少後には必ず元に戻り、むしろ種の劣化を防止することも考慮する必要があるかも知れません。悩ましい問題ですが、ここは感情と科学のバランスをとりながら短絡な結論に走らず、人間の英知を結集したいものです。

元を正せば家畜化の前は全てが野生動物であり、一概に命の比較はできないのですが、現代社会では愛玩動物なら個の命に執着し、野生動物に関しては種全体としての命を考慮することがより重要かと思われれます。それにより種個有のDNAもきちんと守られるのです。そうだとすれば、ヒョットとしてアイツの先祖はイノシシ（？）だったのかも。

漁業者の環境保全に対する主な取り組み

2005. 9.13

JF全漁連

水産基本法(平成13年6月)に基づく水産基本計画のなかに水産資源の保存管理、水産動植物の増養殖推進、水産動植物の生育環境の保全・改善がうたわれている。また、近年、漁業そのものが物質循環の補完機能や環境保全機能などがあるとしており、環境保全と漁業とは密接な関係にあるとの認識がある。

1) 石けん使用推進運動－漁協女性部－

- ① 1970年に、千葉県の漁協婦人部による海産魚を用いた合成洗剤の有害性検証試験が発端。現在、全国漁協婦人部（現女性部）が石けん使用推進運動を展開。（石けん使用量は約10万t、合成洗剤の1/10程度）
- ② 水質検査の実施、勉強会開催など活発な取り組み実施。

2) 海浜の清掃活動

- ① 環境保全の一環として全国で漁業者による海岸のゴミ清掃活動を実施。…漁協青年部、女性部及び市民が一体
- ② 毎年、全国1,000ヶ所、延べ100万人規模による海浜の清掃実施。

3) 船舶等流出油の防除活動

沿岸域における座礁・沈没等事故による流出油の防除清掃実施

ナホトカ号沈没油流出事故…延べ6000人の漁業者による重油清掃
年間10件以上の座礁・沈没等事故の発生

4) 漁民の森植樹活動の推進～森・川・海を繋ぐ運動～

- ① 流域環境保全の一環として全国の漁業者が魚付き林の再生等をめざし山林、河畔林等の植樹の実施…漁協女性部等
事例；ニシン、シロザケ或いはコンブの復活などの成果

- ②北海道から始まった植樹活動は全国約190ヶ所(31道府県)に及ぶ。
今後は、農林業等他業種、一般市民等との連携の必要性

5) 海の森再生事業の推進

- ①藻場は、磯焼けが問題となっており、食害、開発・埋立、水温変化、内陸域からの汚濁流入等の影響を危惧。
②漁業者によるアマモ場造成の取り組みなどがある。
(事例；宮城県亘理町(ワリ)漁協、徳島県漁業士会、鹿児島県鹿屋漁協)

6) 漁業系廃棄物対策の推進

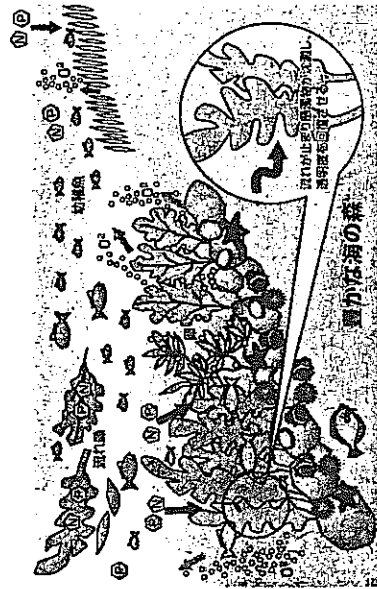
- ①廃FRP漁船の適正処理の推進
セメント原燃料としてリサイクル化の検討
②カキ殻等廃貝殻を利用して、魚礁、藻場礁として有効利用(日本海、九州、瀬戸内海など)
③自治体等の協力による貝殻を用いた水域環境改善の試験研究の取り組み。(北海道ほか)

藻場・干潟の重要性と漁業者等による保全活動

- 我が国の沿岸域は、豊かな環境・生態系に恵まれ、水質の浄化や生物の多様性維持の機能を有するとともに、美しい景観やアメニティーの場を提供。
- しかしながら、開発の進展とともに、自然海岸や、藻場・干潟の減少、海岸・干潟の減少、海岸ゴミの増加により、環境・生態系が悪化。
- 藻場・干潟の再生を進めるとともに、今後、藻場・干潟の維持管理や海岸・海底ゴミの清掃等の環境・生態系の保全活動を維持・拡大していくことが重要。

藻場・干潟の環境・生態系保全機能

- ① 水質浄化
 - ・窒素(35.2万トン(日本人が排出する窒素の7割に相当))、リン(4.9万トン(同じく約9割に相当))を吸収(藻場)
 - ・二枚貝等による海水のろ過(ろ過量は900億m³(我が国下水処理量の約7倍に相当))(干潟)
 - (注)データはいずれも推計値
- ② 生物多様性の維持
 - ・魚類・植物プランクトン等多様な生物の誕生・生育の場



【藻場の機能】



【干潟の機能】

・日本最大の干潟である有明海で記録された底生動物の種類は1250種類以上

・干潟は渡り鳥の成育・中継地

- ③ 海岸線の保全
 - ・波浪の抑制や底質の安定による侵食防止効果

藻場・干潟の減少

藻場面積：高度経済成長期に大幅に減少

207,615ha(1978年)→142,459ha(1998年)(約3割減)

(1978年については、20m以浅、1998年については、10m以浅を調査対象)

干潟面積：82,621ha(1945年)→49,380ha(1998年)(約4割減) 資料：自然環境保全基礎調査

水産公共事業による藻場・干潟の再生

漁港漁場整備長期計画(平成14年策定)に基づき、平成18年度までに概ね5,000haの藻場・干潟を再生

漁業者等による環境・生態系の保全活動

- ・海浜・海底ゴミの清掃 【海岸清掃】
- ・藻場・干潟の管理・改善 (ウニ等藻食性動物の移植・駆除 【干潟を覆うアオアサ等被覆生物の回収 ための回収作業】 海底耕耘等)
- ・植樹活動 等 【植樹活動】

